

製品名: IRF-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12739**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	IRF2
別名	IRF2; Interferon regulatory factor 2; IRF-2
遺伝子 ID	3660.0
SwissProt ID	P14316
免疫原	抗血清はヒト IRF2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

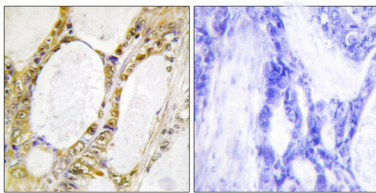
背景

IRF2 は、インターフェロン調節転写因子 (IRF) ファミリーのメンバーであるインターフェロン調節因子 2 をコードしています。IRF2 は、IRF1 を介したインターフェロン α および β の転写活性化、およびおそらく転写活性化に IRF1 を利用する他の遺伝子の転写活性

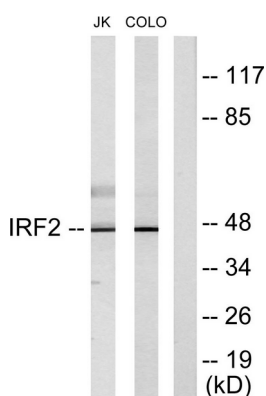
化を競合的に阻害します。しかし、IRF2 はヒストン H4 の転写活性化因子としても機能します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: I 型 IFN および IFN 誘導性 MHC クラス I 遺伝子上流調節領域 (インターフェロン コンセンサス シーケンス (ICS)) に特異的に結合し、これらの遺伝子を抑制します。また、H4 および IL7 を含むいくつかの遺伝子の活性化因子としても機能します。ISRE プロモーターに恒常的に結合して IL7 を活性化します。H4 のサイト II (HiNF-M) プロモーター領域に結合し、細胞増殖中に転写を活性化することにより、細胞周期の制御に関与しています。IRF1 の転写活性化に拮抗します。誘導: ウイルスおよびインターフェロンによって誘導されます。PTM: 細胞増殖中に CBP/p300 によってアセチル化されます。Lys-75 のアセチル化は、H4 プロモーター活性の刺激に必要です。PTM: 主要な SUMO 化部位は Lys-137 と Lys-293 です。SUMO1 による SUMO 化は、IRF1 に対する転写抑制活性を増強し、ISRE および H4 プロモーターを活性化する能力を減少させます。類似性: IRF ファミリーに属します。類似性: 1 つのトリプトファンペンタッドリピート DNA 結合ドメインを含みます。サブユニット: BRD7、IRF2BP1、および IRF2BP2 と相互作用します。増殖中の細胞では CREBBP と相互作用し、この相互作用によって IRF2 がアセチル化され、IRF2 依存性の H4 プロモーター活性が調節されます。組織特異性: 結腸上皮全体で発現しています。粘膜固有層にも発現する。

研究分野

画像データ



IRF2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



IRF2 抗体を用いた Jurkat 細胞および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。